

# 震災時の反省から立ち上がった「防災サミット」 団体の枠を超えた結びつきへ

東日本大震災の発生に伴って、市内各地で地域住民による助け合いが見られましたが、そういった共助の取り組みは、日頃から行われている、防災をはじめとする様々なまちづくりの積み重ねが現れたものです。

この事例集は、震災時の共助の取り組みを、震災以前の地域での取り組みとともに紹介することで、今後の防災を切り口としたまちづくりの参考にしてもらうために作成したものです。

そして、この取材の中で浮かび上がってきたものが「連携」というキーワードでした。震災後、「八本松地域防災サミット」を立ち上げた八本松地域の方々にお集まりいただき、地域の連携の必要性和実効的な防災体制づくりのあり方をいっしょに考えていただきました。

## 震災時の反省から立ち上がった 「八本松地域防災サミット」

**司会:** 八本松地域で防災サミットがつけられたきっかけは何だったのでしょうか？

**平間:** 八本松連合町内会では毎年、火災を想定したバケツリレー・消火・救命などの防災訓練を行ってきました。しかし、東日本大震災において、それらの訓練が役に立ったのか、という疑問が残りました。発災当日は、指定避難所ではない八本松市民センターに地域住民が700人くらい集まり非常に混乱しました。電気をどうするか？寝る場所をどうするか？など避難所の運営までを想定した防災訓練が必要だと感じていました。

**三野宮:** 震災2日目に連合町内会で会議を行い、八本松小学校と市民センターの2つの避難所を立ち上げることになり、小学校は平間副会長、市民センターは小南副会長に避難所対策本部長になっていただきました。しかし、2つの避難所を立ち上げることの難しさを感じました。そんな折り、震災後まもなく市民センターから実効的な運営体制をつくるために防災サミットを立ち上げたいという声がかかったわけです。

## 地域に頼られる施設として 市民センターの声がけて各種団体が連携

**司会:** 声がけは市民センターからだったのですかね？

**本名:** 震災時、市民センターは指定避難所ではありませんでしたが、700名以上の地域の方が避難され、地域から頼られているなと思ったと同時に、市民センターとして、避難された方々を受け入れる必要性を強く感じました。また、平成22年度から防災講座で消防署を呼んでAEDの訓練を実施していましたが、震災を受けて、従来の防災講座をやっている場合ではないのでは？と考えました。地域の横のつながりをしっかりつくるためには、記憶が薄れる前にすぐ検証することが必要だと考え、平成23年5月に連合町内会長と副会長に話をもちかけました。

**小南:** 「八本松地域防災サミット」の話をする前に経緯を説明しますと、平成22年に太白区で三者委員会(P3の図参照)を立ち上げました。八本松地域でも同じように八本松連合町内会、八本松地区社会福祉協議会、長町第一地区民生委員児

## 八本松地域防災サミットの 皆さんとともに

八本松地域では、震災後、八本松市民センターの声がけにより、連合町内会、地区社会福祉協議会、地区民生委員児童委員協議会、学校、子ども会などで構成する「八本松地域防災サミット」という会議を立ち上げ、地域一丸となった防災体制の構築に取り組んでいます。



八本松市民センター職員  
本名 紀恵子さん



八本松連合町内会  
三野宮 利男会長



八本松連合町内会  
平間 康弘副会長



八本松連合町内会  
小南 純也副会長



八本松地区社会福祉協議会  
木皿 照雄会長



八本松小学校  
三嶋 廣志校長

童委員協議会の三者で組織化しました。事業内容としては、町内会の防災に対する認識のバラつきを是正するため、町内会長等を中心とした防災関係の研修会、災害時の安否確認・災害時要援護者支援体制の構築等について話し合いを重ねてきました。平成23年4月に、市民センターが事業の一環として行う「防災サミット」への参画要請があり、三者委員会の目的とほぼ一致するため、同委員会から各町内会長等に打診することにしました。

**三野宮:** この防災サミットについては、各町内会長さんに説明し、児童館、小学校、社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会にも声がけし、市民センター事業として防災サミットを行うことについて同委員会の同意を得ました。

**木皿:** 連合町内会の方から声がけがあり、社協としても三者委員会をより具体化できると思いました。

**三嶋:** 連合町内会からお話をいただいたとき、学校としてもありがたい話だと思いました。

私は、震災時は柳生小学校に勤務していました。

柳生小では体育館の被害が大きく、避難所を開設することができませんでした。そこで、各町内会では、集会所で炊き出しを行ったり、子どもたちの面倒をみてくれたりと本当に地域の方にお世話になりました。今回の震災で感じたことは、学校だけでは対応できず、地域の皆さんの協力が必要だということです。そのためにも、学校の手も地域に開放しなければと思っていました。

震災前の訓練が役に立たなかったという話が平間副会長からありましたが、平成16年から学校と地域と一緒に防災訓練を授業日に行っており、地域のつながりという土壌があったからこそ、防災サミットが生まれたのだと思います。

話し合いや防災訓練の中から  
浮かびあがる問題点  
何度も試行錯誤を重ね一歩ずつ改善

**司会:** 防災サミットは当初どのようなカタチで進められたのですか？

**平間:** 震災時の問題点を洗い出し、足りないことを出して、一つ一つ問題を解決する会議を全部で8回行いました。

**小南:** 連合町内会長・副会長と市民センターで3回も4回も打合せをして、1回分の会議資料をつくるという感じです。

**司会:** どのような問題が出てきましたか？

**小南:** 避難所運営に当たって、町内会で把握している要援護者数と民生委員が把握している数が違っていることが分かりました。地域で活動が重複する部分があれば、抜け落ちている部分もあり、横の連携が必要だと痛感しました。

**平間:** 避難に関する考え方もバラバラで、防災訓練にしても実情に合わないようなことをしている感じでした。

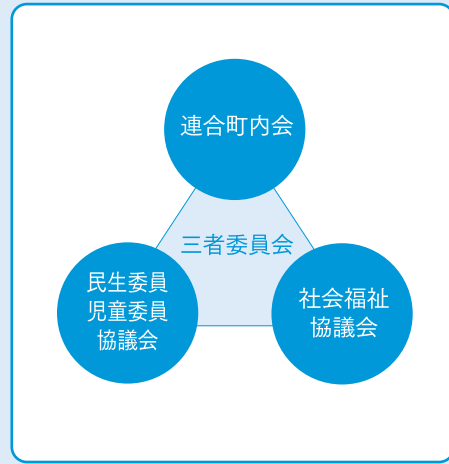
**三野宮:** 各町内会で抱えている問題はそれぞれ違いました。とにかく抱えている問題をある程度まで引き上げて、八本松エリア全体の課題として改善していかなければいけないと思いました。

**小南:** 社協の中に福祉委員という組織があり、震災時には安否確認をすることになっていたのですが、ほとんどの町内会長さんが福祉委員を兼務しているのが実態でした。町内会長は地区災害対策本部の立ち上げに入ってしまうので、実際には動けない状況でした。これではダメだということで、各町内会で検討していただき、別に福祉委員を出してもらい民生委員といっしょに安否確認に当たってもらうことにしました。



防災サミットの様子

平成 22 年



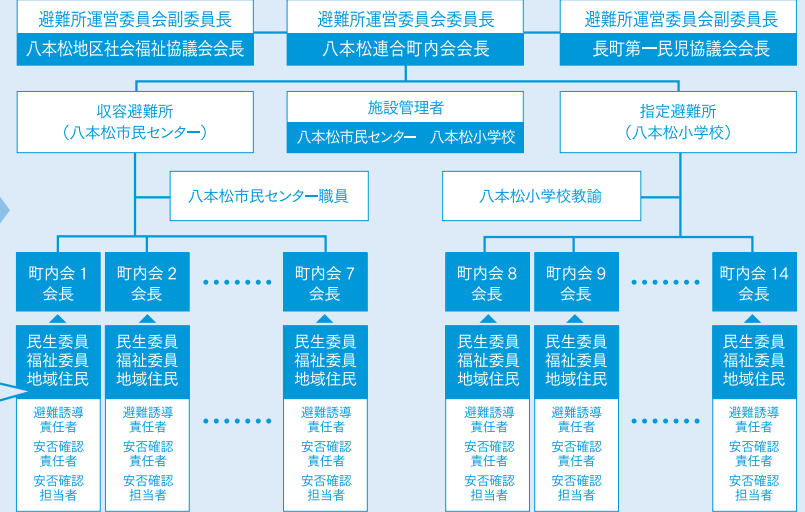
平成 22 年に太白区で立ち上げた三者委員会。連合町内会長協議会、民生委員児童委員協議会、社会福祉協議会の三者が、災害時要援護者支援体制の構築や、指定避難所の運営などについて区を上げて話し合いを行っていました。

**本名:** 町内会の中にそれぞれ避難誘導責任者、安否確認責任者が必要だということが分かってきました。民生委員や福祉委員がいないと具体的な要援護者の対応は難しいと思います。

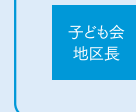
**司会:** これらの問題があがってきて、具体的な組織づくりをされていったんですね？

**三野宮:** 試行錯誤の中で、八本松地区の地域防災体制を立ち上げました。避難所運営委員会の副委員長に社協と民児協の会長さん、避難所は八本松小学校と八本松市民センターを設定し、施設管理者として八本松小学校の校長先生と市民センター館長が入っています。それぞれの避難所に7つの町内会がつながり、それぞれに避難誘導責任者、そして民生委員と社協の福祉委員による安否確認責任者・安否確認担当者を配

平成 23 年



平成 24 年



平成 23 年、震災時の反省をもとに、体系的な地域防災体制をつくり上げました。避難所として八本松小学校と八本松市民センターを設定し、それぞれに7つの町内会がつながり、町内会役員を避難誘導責任者とし、民生委員と社会福祉協議会の福祉委員を中心に安否確認責任者・安否確認担当者を配置しました。平成 24 年から子ども会の地区長にも入ってもらっています。

置することとしました。

**小南:** それぞれの避難誘導責任者には、炊き出し、AED使用、発電機操作などの役割を持っていただいています。

**司会:** この体制の中で行われた平成 23 年 10 月の防災訓練はどのようなカタチで進められましたか？

**平間:** 震災6ヵ月後の訓練では、本当に必要な訓練は何かを防災サミットで議論してきました。その結果、第1に避難所立ち上げ訓練、次に防災訓練を行うことにしました。当日は、約1,000名の参加があり、地域住民の関心の高さがうかがえました。

**三嶋:** 昨年度は、従来の濃煙訓練や地震体験車「ぐらら」などの防災訓練とは一線を引き、避難所を同時に2ヶ所立ち上げることとしました。学校では、それぞれの避難所に確実に移動することに

重点を置き、子どもを学校で保護者に引き渡した後、親子でそれぞれの避難所に行き、そこで町内会の方々と合流することにしました。

**小南:** 地域では、避難所に移動する前に一度、一時避難所<sup>いっしょ</sup>に集まり、町内会ごとに集合した人数と要援護者の確認を行い、報告を集約することにしました。要援護者の確認は、安否確認責任者が行うこととしました。

**司会:** 1年目の防災訓練で何か問題点や改善点の指摘はあがってきましたか？

**本名:** 防災訓練でもいろいろ問題が出ました。例えば、大きな町内会では、役割分担が担当者まで伝わっていなかったため、訓練当日混乱が起きたということもありました。また、今回初めて防災訓練後にアンケートをとりましたが、苦情や

提言などを含め、いろいろご意見をいただきました。それを町内会ごとにまとめて一覧にして、反省会等で活用しました。

**平間：**反省会は安否確認責任者や避難誘導責任者を含め、サミットの拡大会議としました。これは、安否確認責任者や避難誘導責任者まで伝わっていなかったという反省からです。

**小南：**訓練では人数が多くて、やることがなくて、ぼうっとしている人も多かったですね。訓練をみんなが効果的に参加できるようにするにはどうしたらいいかを考えないといけないと痛感しました。

**木皿：**参加者が多くてどこに誰がいるかわからない状況でした。この反省を受けて、識別できる防災ベストを社協の予算で購入しました。

**本名：**防災サミットに30代40代の人がないのは、おかしいのではという意見もいただきました。防災訓練をする意義やどんな訓練をするのかということが、若い人や親御さんたちに十分伝わってなかったという反省もあります。

**実効的に動ける体制づくりの必要性  
若い人材を取り込むためにも  
子ども会と連携**

**本名：**実際の震災時にも最初に手伝ってくれたのは町内会の婦人部の方で、若い人はなかなか手伝ってくれませんでした。そこで市民センターの講座のつながりで、八本松小のPTA会長さんに声をかけて炊き出しを手伝ってもらった経緯がありました。「子どもも親も町内会の一員」を合い言葉に子ども会とつながりを持つために、



避難所運営訓練の様子

平成24年度から子ども会の地区長にも防災サミットに入ってもらい、地域防災についていっしょに考えていこうと提案し同意を得ました。拡大会議の際に参加してもらっているのですが、若いお母さん方が多く、ピンピンと厳しい意見も出て防災サミット自体にも活気が生まれています。

**平間：**防災訓練でも、若い人たちを取り込むための改善点を掲げました。アルファ米による炊き出しを若い方々に手伝ってもらったり、児童館と一緒に遊びながら学ぶ防災講座ワークショップを行ったりするなどの案が出ています。学校の先生方も子どもたちの参加方法をいろいろ考えてくれています。

**三嶋：**「地域の一員として地域で子どもたちを守ってもらう」ということで、地域とともに歩む学校を目指しています。八本松小には8つの地区子ども会があり、14町内会とどのように連携するか見直しを図っています。震災から2回目の平成24年度の訓練では、子ども達が学校に行く前の時間の発災を想定しました。親の責任のもと、まず自宅から一時避難所に行き、次に町内会の方々と一緒に2ヶ所の避難所に移動します。防災訓練の中では、高学年児童がアルファ米の炊き出し配布を行い、地域の皆様に配布する活動もあります。地域の方からご意見をいただきながら試行錯誤でやっています。親御さんも町内会とのかかわりの大切さを感じています。

**住民による住民のための災害対策  
町内会の話し合いにも活気が**

**司会：**防災サミットを行って、地域や各種団体間に変化はありましたか？

**本名：**防災サミットで決まったことや役割分担など、町内会のみならず話し合いをしないと提出できない資料づくりもしています。平成24年度の防災訓練は8種類の訓練を行う予定でそれぞれに担当をつけてもらっています。単なる割り振りではダメで、



支援物資を手分けして搬入



炊き出しのための打ち合せの様子

子ども会の地区長ともいっしょに話し合うことで各町内会とも実効的な体制づくりができると思います。最近、「地区の町内会会議を開いたよ」「防災組織をつくったよ」という話を聞くようになりました。

**平間：**防災体制の構築に向けて、町内会内でもよくコミュニケーションをとるようになりました。町内会と子ども会など、以前は関係がなかった団体もつながりができています。こういった取り組みを通して、サミット実施以降は町内会長が市民センターによく集まるようになり、町内会長との緊密な関係が構築されてきています。

**小南：**うちの町内会では、隣のマンションの町内会長さんと連携できるようになりました。集居室などで「お茶会しませんか」という感じで隣同士の話し合いができてきています。エレベーターにAEDを用意したというような情報もいち早く共有できるようになりました。

**本名：**資機材・備品リストを各町内会から出してもらい、それをまとめて一冊にして、例えば発電機がどこの町内会にあるというような情報を共有しています。また、リストを参考に各町内会が防災備品を揃えるきっかけになりました。

**地震だけではない総合的な防災体制へ  
八本松地域全体の  
コミュニティづくりのきっかけに**

**司会：**これからどのようなカタチでサミットを進めたいですか？

**平間：**広瀬川が近くにあるため、大雨による川の

氾濫の可能性もある地域です。どんな災害にも対応できる「総合的な防災体制」をつくりたいですね。そのためにも、いろいろと話し合いをする必要性があります。

**小南：**現在はかなり活発な活動ができていますが、今後もっと若い層を取り込みたいと思っています。実際動ける人がいるかどうかを考えていかないと、将来尻すばみになってしまいます。ただ、現役のお父さんたちは仕事を持っていて、実際に会議に出るのは難しいという状況です。震災時でも会社の応援に行かなければならないという人も多かったといえます。

**司会：**今回、様々な事例を取材する中で、町内会によっては中学生を活用しているところもありました。避難してきた若い人を活用するということもありました。子ども会や体育振興会など、地域の様々な団体と連携して地域全体で乗り切っている地域が多く見受けられました。

**本名：**八本松地区では、八本松の地域特性を生かしながら、住民同士、町内会同士、社協や民児協の役員さんたちとも防災サミットを通し、顔の見える関係をつくらうとしています。確実に一歩ずつ小さな組織のつながりをつくってそれをさらにつなげていく、市民センターはそういったコーディネーターだと思っています。

**三野宮：**防災サミットでは防災をテーマに地域の連携を築きあげていますが、このコミュニティづくりがいろんな場面に広がっていくと、さらに地域の活性化につながっていくものと思います。